

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 27 年前期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**  
研究発表報告書

申請者氏名	石川 優樹	会員番号	34332
申請者の 所属・職名	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 研究生		
出席会議名	2015 Annual European Congress of Rheumatology		
発表論文 タイトル	TYPE I INTERFERON PLAYS A KEY ROLE BOTH IN IMMUNOGENICITY AND LUPUS-LIKE AUTOIMMUNITY IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS TREATED BY INFLIXIMAB		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、誠に光栄に存じ上げます。また、応募に当たり推薦の労をいただきました京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学教室の梅原久範先生にも併せて厚くお礼を申し上げます。

私は 2015 年 6 月 10 日から 14 日にかけてイタリアのローマで開催された 2015 Annual European Congress of Rheumatology (eular 2015 ; ヨーロッパリウマチ学会)に参加いたしました。今年で 3 回目の eular への参加となりましたが、アメリカリウマチ学会 (ACR) と並んでリウマチ学分野における最大規模の学術集会の eular では、関節リウマチ、全身性エリテマトーデなどの自己免疫疾患に関連した基礎・臨床研究に関する最新の情報を毎回得ることができると感じています。また、日本では稀少疾患である強直性脊椎炎の臨床および基礎の知見、日本でも昨今盛んに施行されるようになってきた関節エコーに関する知見など、eular ならではの充実した Session も拝見でき、多くの刺激を得ることができました。

私は本学会にて、表題にあるタイトルに関する演題にてポスター発表をして参りました。昨年の eular でポスターツアーに採択された抗 IFX 抗体の誘導 (免疫原性) と、抗核抗体や抗 DNA 抗体などの SLE 関連自己抗体の誘導との関連を検討した内容で、今回の発表においては特にその共通機序として、抗薬物抗体誘導患者において有意に上昇していた血清中の Type IFN が関与している可能性を報告いたしました。抗薬物抗体、Type IFN の異常は、リウマチ学の分野において度々取り上げられるトピックでもあり、多くの参加者と有意義に討論が出来たことは大きな成果であったと感じています。

最後に、このような機会を与えて頂きました岸本忠三先生および選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。また研究のご指導を頂いた三森経世教授、藤井隆夫教授、ならびに研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、本学会中に得られた知見を活かし、今後より一層研究に精進していきたいと思っております。